

『Beautiful Land』

作
樋口ミユ

ニコ

リコ

ママ

彼氏

奏でるもの

踊るもの

一面にマスク

マスクの海。

整然と並んでマスク。

もう見慣れた。

マスク。

マスク。

マスク。

無数の人たちのマスク。

歩いていくマスク。

信号待ちのマスク。

食事するマスク。

眠るマスク。

電車に乗るマスク。

買い物するマスク。

一面にマスク。

ただのマスク。

マスクマスクマスクを繰り返して

マスクママスクスクスク意味もない。

マスクに混じって。

なにかの部品。

並んでいる。

マスクに混じって。

靴。

靴下。

衣類。

ズボン。

スカート。

ブラウス。

チョッキ。

さまざまな衣類。

マスクに混じって並んでいる。

誰のものか。

誰もしらない。

まだ名前はない。

裸体の男女。

どこからともなくやってくる。

黙って見つめるマスク。

黙って見つめ返すマスク。

並んでいる部品を手にとる。

靴。

靴下。

衣類。

ズボン。

スカート。

ブラウス。

チョッキ。

さまざまに。

そして最後に、
最後の部品。

長い長い大きな袖。

手を通して、

完成する。

出来上がり。

そして大きなモップを持ち出して、

一面のマスクを、

掃除する。

そこはなにもない。

Creature だけがいる。

Land 0

街灯の下、2体の creature

1体は佇んで。

もう1体は楽器を抱えて座り込む。

通りすがりに。

コインを入れる。

と、

それらは動きだす。

音楽を奏でる。

そのリズムに合わせて踊る。

奏でる。

踊る。

Joyful Joyful

歓喜の歌だ。

奏でる。

踊る。

それを、

じっと見ている。

わたし。

パ。

街灯が点滅した。

奏でるものと踊るものは、
点滅など気にしない。

パ。パ。パ。

点滅。

パ。パ。パ。パ。パ。

点滅。

やがてコイン分の時間が過ぎて、

奏でるものと踊るもの。

パタリと途切れて、

終わった。

パッ パッ パッ

街灯も、

そろそろ終わりのようだ。

ニコ なんて、わたし、泣いているんだろう。

どうやら泣いていた。

ニコ　なんで、わたし、泣いているんだらうと、言ったんだらう。

と、つぶやいた。

ニコ　なんで、わたし、泣いているんだらうと、言ったんだらうと、考えているんだらう。

パチンと、切れた。

暗闇。

あの音楽、

Joyful Joyful

歓喜の歌だった。

Land 1

パ。

暗闇に光射す。

「情報」

向かい合って、わたしとあなた。

リコ ひとりはきらい。

リコ でも大勢は疲れる。

リコ 4、5人のグループが一番嫌い。

リコ 静かな時間が好き。

リコ でも陰気じゃない。

リコ 恥ずかしくて浮かれられない。

リコ でも羽目を外したいとも思う。やらないけど。

リコ どうせ自分なんか、って言いたくなる。

リコ でもホントのホントの本心は、それほど悪くないって思っている。

リコ なのに、人には「ぜんぜんダメなんですよわたし」と言ってしまう。

リコ だからダメなんだっていつのまにか思ってるのかも。

リコ 自分が嫌い？

リコ でも本気で嫌いじゃない？

リコ ていうか、自分のことが好きか嫌いか本気で考えたこともない。

リコ 人の目が気になって縮こまる、

リコ くせに、人を見下しているところがある。

リコ いろんなことを笑ってごまかすことが多い。

リコ それで案外うまくいくからイヤだけどまあいいかと思う。

リコ それを見抜くサバサバした女が嫌い。
リコ でも自分にしか興味がない女はもつと嫌い。
リコ 俺様な男も嫌。
リコ 自慢話のおじさんも、
リコ 女はね、とか言ってくるおばさんも、
リコ 年上の男にばかり気を使っている若い男が特に嫌い。
リコ でも嫌いな人がいても、誰にも言わない。
リコ だって誰からどこから漏れるか分からないから、
リコ 誰に話していいか分からない。
リコ 誰が信用できるか分からない。
リコ 知り合いはたくさんいるけれど、
リコ 友だちが分からない。
リコ あたし。
リコ 普通にもう大人なのに。
リコ 安心できない。

もう自分のことを話すことがなくなったあなた。

「決定していいですか？」

わたしは問う。

リコ yes

「設定」

わたしは発する。

向かい合って、わたしとあなた。

リコ 話しを聞いてくれる。

リコ 聞き流さない。

リコ 本当に聞いてくれる。

リコ 気の利いたことを言ってくれ。
リコ けどお喋りすぎない。
リコ 無口じゃなくて、余計なことを言わないだけ。
リコ 雑談はたくさん。
リコ 愚痴と悪口で盛り上がれる。
リコ どんな話しても一緒に楽しく笑える。
リコ 正しいことを言すぎない。
リコ けどあたしが暴走しすぎたらちゃんとやんわり止めてくれる。
リコ 「間違ってるよ」が優しい。
リコ 「間違ってるよ」が優しい。
リコ あたしが忘れそうな、何気ない、だけど大事なことを覚えていてくれる。
リコ 趣味は合わなくてもいいけど、あたしの好みはとことん知っている。
リコ 心配するフリじゃなくて本当に心配してくれる。
リコ 褒める言葉を使ってケナしたりする意地悪をしない。
リコ 小さなウソとかくだらないウソをつかない。
リコ 絶対に秘密を守ってくれる。
リコ あたしのことを影で馬鹿にしない笑わない。
リコ あたしの問いかけに答えてくれて、
リコ どんな時も「大丈夫だよ」「心配ないよ」って、
リコ そしてあたしは安心して眠る。
リコ 都合よすぎて笑える

言いつくしたのか、もう言葉が出てこないあなた。

「決定していいですか？」

わたしは問う。

リコ yes

「名前」

リコ エヌ、

「N」

リコ アイ

「I」

リコ シイ

「C」

リコ オオ

「O」

リコ ニコ。

「NICO 決定していいですか？」

リコ yes

「決定します」

瞼を閉じた。

わたし。

「決定」

「ただいま設定しております」

「しばらくお待ち下さい」

「ただいま設定しております」

「しばらくお待ちください」

「ただいま設定しております」

「しばらくお待ちください」

「ただいま、」

「自動的に起動します」

「起動」

ゆっくりと目を開ける。

ニコ こんにちは。

ニコ こんにちは

ニコ わたし、ニコ。

目の前に、あなた。

リコ これ

うさぎのぬいぐるみを差し出す。

リコ あげる。ずっと抱いていて。必ず持っていて。

もう古いぬいぐるみ、抱いた。

ニコ うん、分かった。ありがとう。

リコ あたし リコ。

ニコ よろしく、リコ。

リコ よろしく ニコ

じっと見た。

ニコ どうしたの、リコ。

リコ え、

ニコ なにか あった？

少し驚いて、

ニコ そんな顔してる。

ニコ 分かる？

ニコ わたしを誰だと思ってるの？

じつと見る。

ニコ ニコ。

ニコ そう。わたし。

ニコ ニコ。

ニコ リコの友だち。

ニコ あたしの、

ニコ あなたの親友。だからもう大丈夫。

街灯が再び明滅しはじめる。

パパパパパパパパ

パッ、

パッ

パッ

パッ

パッ

ふっと、

闇。

光はなく。

闇、のなかで。

メロデイが聞こえる。

なんとも悲しげに。
けれどなんとも懐かしい。

やはりあれだ。

Joyful Joyful

歓喜の歌。

闇から歌と、

「こっちの端は闇、こっちの端は光」

まるで呪文のように聞こえる。

「こっちの端は闇、こっちの端は光」

「こっちの端は闇、こっちの端は光」

「こっちの端は闇、こっちの端は光」

闇が終わって、

煌々と明かり。

ピ

病室の明かり。

わたし。

すべてをここで、
じっと見て。

ゴロゴロ。

ベッドがゴロゴロ。

真白なシートが被せられて。

若い男がベッドをゴロゴロ押してくる。

ピ

ゆっくりと、頭を下げた。

ピ

つられてゆっくりと、あなた、頭を下げる。

ピ。

彼氏 はじめまして。

言ってみるが変な感じがする。

彼氏 なんて、こんな時に言う言葉じゃないですけど、その、

気まずい空気。

リコ 写真、

彼氏 え、

リコ 7年前、家、出る時にパパが、あなたの写真、見せてくれたから。

彼氏を見る。

リコ あたしは「はじめまして」って感じじゃないです。

彼氏 あ

なんと言っているのか。

彼氏 すみません

リコ なんて謝るんですか？

彼氏 すみません。

リコ ベッドに寝そべって指ハートの写真は さすがにママには言えなかつたけど。

彼氏 すみません。

リコ パパうれしそうだったから、

彼氏は黙る。

リコ ママという時には見たことない笑顔で、

彼氏はなにも答えられない。

リコ ほんとです。

彼氏 すみません。

リコ ほんとなのに。

彼氏 すみません。

リコ なにがすみませんですか。あなたがパパより30歳年下だから？ あなたとパパが男の人同士だから？ ママにもあたしにもずっと黙って浮気してたから？ 結局パパがあなたを選んだから？ どれもなんにもすみませんじゃないよね？ なにがすみません？

彼氏 まだ

はつきり言わないからよく聞こえない。

リコ え、なに？

彼氏 まだ その

リコ 聞こえない。

彼氏 まだ、婚姻届け、出せていなくて、だから、

リコ ママと離婚してもう7年も経ってるのに何してたの？

彼氏 すみません、僕じゃ無理で無理だから僕ではこれはだから、

リコ なにが？

彼氏、真白なシートを見た。

彼氏 終わりを決められません。

リコ 終わり？

彼氏 家族しか、決められない

リコ ママ、

彼氏 離婚したらもう他人です、だから、

リコ だから？

ピ

リコ あたし。

ピ

彼氏 だからすみません

ピ

リコ あ、そう。

ピ

リコ 何なの、いまさら連絡してきてって、思ったけど、

ピ

リコ ああそう、こういうこと、ああ、なるほどね、

ピ

リコ 寝たきりのパパの世話は嫌だってことよね？

ピ

リコ だから人工呼吸器止めるサインしろって？

ピ

リコ 手に負えないから最後の最後はあたしに押し付けるんだ？

ピ。

リコ 元気な時はウハウハでそりやベッドの中は楽しかったよねえ？ こんであたしはサインひとつで一生悔やめって？

ピ。

彼氏 7年です。

ピ。

彼氏 ずっと、言わずにいてすみません。7年です。もう、7年

リコ な

彼氏 はい。

リコ なにそれ、じゃパパが出て行ってすぐってこと？

彼氏 はい

リコ 7年も、この状態？

ピ。

彼氏 はい。

ピ。

リコ え

ピ。

リコ あなた、7年も

ピ。

リコ　ねえ　なんでその時に　7年前に連絡しなかったの、ねえ？

ピ。

リコ　ねえ

ピ

リコ　ねえ！

彼氏　やっと僕のところに来てくれたんです　！

ピ。

彼氏　また　離れ離れになっちゃうじゃないですか

ピ。

彼氏　諦めるつもりなんてこれっぽっちもなくてだから希望だけがあって希望
しなくて、希望が、7年も続くとわからなくなってきて生え際に、

リコ　え？

彼氏　白髪を、見つけたんです。

ピ

彼氏　そんなの今までなかったのに、伸びて、増えて、あ　時間で、進むんだ
なあああ眠ったままでもああ生きてるって、だから、もう少しだけ頑張ろうあ
と少し頑張ろう

ピ

彼氏　24時間、生きていたら、24時間死に近づいて　でもいいやそれでも

いいやそのほうがいいやと思っっている自分がいて、このまま目醒めなくてもずつと体を拭いて髪を梳かして、でもこれは、これ 毎日、ただ僕の、充実感のために、もしかしたらもう本当は止まっているはずなのに無理に時間を進めて、だったら、僕は、この人を、ここに、体に、牢屋に閉じ込めているのと一緒なんじゃないかって、

ピ

彼氏 もうどこにも行ってほしくなくて僕が機械に無理やり繋いでいるんじゃないかって、思えてきて、

ピ

彼氏 長い間、待ってたから この時間が嬉しいのかなって

ピ

彼氏 こっちの端は愛情、こっちの端は

ピ

彼氏 分からなくなってきた、

ピ

彼氏 「そういうもんだよ、だって僕らは一本の紐みたいなものだからね」

ピ。

リコ それパパの口癖、

彼氏、書類を挟んだバインダーとペンを、

ゆっくりと目の前に差し出す。

リコ いや。

ピ

リコ いや。

ピ

リコ いやだめやめてどうしてあたしに決めさせるの。ねえ病院、ねえもうこれ

医者に決めてもらうとか、なんて、

彼氏 それは、

リコ できないってことくらい知ってる分かってる子どもじゃないんだから。あなた、パパと話し合ってたの、こういうことが起こったらとか、パパもう年だったんだし、

彼氏 あなたのお母様は？ 僕よりずっと長く生活していたんだからそんな話
が、ありませんでしたか、本人がどう考えていたとか、普段の会話からでも、

笑いたいのか、怒りたいのか。

リコ ママとパパが？ え、パパとママが普段の会話！？ そんなこと話すわけないし会話なんていつだってちぐはぐで、

彼氏 僕たちは話そうと決めてました。

笑うのをやめた。

彼氏 結婚の届け出を前にして、どうやって一緒に年を重ねていこうか、どんな風と一緒に生きていこうかって、一晩中話をしてからサインをしようって、だからその時までとっておきにしておこうって、

リコ 今そんなノロケ話いらさないから、

彼氏 のろけじゃない !

強い声に、思わず黙った。

彼氏　なんで、また明日、なんて言葉があるんだろう　　なんで、

ピ

彼氏　当たり前未来のことなんて話すんだろう

ピ

彼氏　ないかもしれないのに、

ピ

彼氏　なんにも、

ピ

彼氏　なんにも、

ピ

彼氏　なんにもないかもしれないのに　　！

彼氏は、真白なシートに突っ伏した。

それをじっと見る。

彼氏、肩を震わせていた。

わたし、それもずっとじっと見て。

リコ むかつく。

ニコ うん、だろうね。

リコ 思う存分悲しんで味わってさあ、

ニコ うん。

リコ こっちはいきなりでどうしていいか分かんないっていうのに、

ニコ 7年前からなんて聞かされたら、

リコ いつが一番の悲しみポイントなのかもう、

ニコ 分からないからリアルに泣けない。

リコ ほんとそれ。むかつく。

ニコ うん。

リコ なにが一番むかつくってさあ、

ニコ うん。

リコ パパがこの人のことめちやくちやめちやくちや愛してたんだなあってこと
とがもう、

ニコ 納得実感できちゃう。

はっと、見た。

リコ 分かる？

ニコ 見た目も中身も好みでしょう。

リコ え、分かる？

ニコ 分かる。

リコ 前からパパとは趣味合うなって思ってた。

ニコ 性的指向が合致しなくて残念だけどさすが親子。

リコ なんで分かるの？

ニコ わたしを誰だと思ってるの？

リコ ニコ。

ニコ そう。わたし。

リコ ニコ。

ニコ あなたの友だち。

リコ あたしの、

ニコ あなたの親友。

リコ ニコ。

ニコ はい。

リコ ニコ。

ニコ なに？

リコ ニコ。

ニコ 大丈夫だよ。

ニコ なんでも言って。

ニコ なんでも聞いて。

ニコ いま何が欲しい？

ニコ いま何が必要？

ニコ なんでも。

リコ なんでも。

ニコ あなたが望めば、

リコ あたしが望めば、

ニコ なんでも。

リコ なんでも ？

ニコ だってNICOはそのためにニコにいる。

ニコ 親友だから。

頬に触れた。

それが思い出す合図。

リコ あの時、あたし、パパになんて聞いたんだっけ？

ニコ あの時？

リコ 出て行く時、彼氏の写真を初めて見せてくれた時。

目を閉じて何かを検索する。

ニコ 「ところでパパはいつからゲイになったの？」

リコ そうだ ! ど直球で、パパ、苦笑いして、何て言ったっけ？

ニコ 「いつ、とか、どこから、とか、なんで、とか、人はそんなにはっきりしているわけじゃないんだよ、リコ、複雑で、けどものすごく単純で、単純だから複雑で、可能性ばかりがあるんだよ」

リコ パパ、言ってることがなんにも分からない。

あなたの洋服の袖は、

ニコ 「あのね、リコ、僕たちはね、つまり人はね、まるで一本の紐だから」
白くて長い長い袖。

ニコ 「例えばこっちの端は希望こっちの端は絶望、まるきり反対のことが、」
伸びた袖はさらにずうっとずうっと伸びて、

ニコ 「つながって、ここに在る」
わたしの洋服の黒い袖に、

ニコ 「例えばこっちの端は朝日、こっちの端は夜の帳」
繋がっている。

ニコ 「朝日が昇る前、昇る瞬間、昇る、昇りきって真昼、傾いてアフタヌーン
テイ、さらに傾いて懐かしい夕日夕焼け夕暮れ黄昏日没漆黒とぎれずに。だけ
どいつのまにか移り変わる自然と同じ」

一本繋がる長い袖。

ニコ 「例えばこっちの端は愛、こっちの端は執着、いや憎悪かな」
途切れることのない、

ニコ 「例えばこっちの端は美しい、こっちの端は」
白と黒のグラデーション。

ニコとリコ 「醜いあさましい穢らわしいなんにも分かれていない切り離せない繋がりながら変化するどれも全部みんな同じ、どっちもパパ、どっちも在るんだよ」

ニコ 「20年前はママを愛して、今は彼を愛してしまうことだってある」

リコ いっただってママだけ愛していなくて他の人ばかり愛してるくせに。

ニコ 「なかなか言うようになったねリコ」

リコ もう大人だから。

ニコ 「うん、それなら安心だ」

リコ さよなら。

ニコ 「さよなら」

リコ さよならパパ。

ニコ 「こっちの端は終わり、こっちの端は始まり、さよならリコ」

ピ

リコ パパ

ピ

リコ ねえパパ！

ピ

リコ 待ってパパ！

ピ

リコ このまま、一生会わないってことと、例えば明日あたしの知らないところでパパが死んじゃって本当にもう二度と会えないってことと、なにがどう違うの？

返事を待つ。

が、なにも答えない。

ニコ ニコ。

なにも答えない。

ニコ ニコ、続きは？ パパの返事は？ あの時パパはなんて言ったっけ？

ニコ 続きはない。

ニコ ない？

ニコ パパはもう行ってしまった。

ニコ あ、

ピ

ニコ そうだ そうだったね、忘れてた

ニコ 大丈夫。かわりに覚えておくから。そのためにもニコはいる。記憶も状況も、持っていたら苦しい悲しみも、

ニコ パパは死んだと思いましょって、ママが言ったから、

ニコ うん。さよならの日に思う存分泣いたんだよね。

ニコ もう7年も前なのに今さらどう悲しめばいいのよ ?

ニコ それが、本当？

ニコ え？

ニコ 本当の本当は、なにを思ってる？ なにを考えてる？ なにを感じてる？
ニコには何でも言っくいんだよ？

ピ

ニコ 最悪なやつ。

ニコ 薄っぺらくて薄情で、なのに口だけ達者で言いくるめられる。

リコ いい気味。

ピ

リコ だって捨てたんだから。これ、罰だよね、だから、いい気味

ピ

リコ 違う これも本当じゃない

ピ

リコ 意識がなくてもパパ幸せだったなら

ピ

リコ だったらやっぱり、それで良かったなって思うのにも許せないどっちも本当、どっちもあたし、なにもかも本当、全部、あたし、ねえニコ、もうどうしたらいい？

書類のバインダーを、差し出す。

ニコ どんな人間にもね、美しい端っこ醜い端っこどっちも在る。美しいだけの人もいないし、醜いだけの人もいない、どっちも在るから人間で、どっちも在るからこの一瞬、この瞬間、今、どっちになりたいかを、選べる。複雑で単純なんだよ。

リコ パパが言った

ニコ そう、パパの言葉。

リコ ほんと、どの口が言うんだろう

ぐっと、唇を噛んだ。

リコ ああ 血の味がする

ピ

リコ これが、人を殺す味 ？

ピ

リコ それともパパを救う味？ ねえ、どっちなの、ニコ。

ピ

ニコ どっちも在る。どっちになりたいかは、選べるんだ。複雑で単純なんだよ。

パパの言葉を言った。

ペンを握りしめて、

書類にサインをしようとしたが。

ピ

次に見たものは、

Land 4

突っ伏している彼氏に声を投げたリコ。

リコ ねえ。

彼氏は泣き顔をあげた。

リコ パパの creature 作って。

彼氏 え、

リコ そうしたらあなたもきつと慰められるし、あたしも罪悪感が少しは小さくなるかも。 Creature を作ってからサインしたって全然おそくない。

彼氏 あの、

リコ なに？

彼氏 君、

リコ リコ、

彼氏 え、

リコ あたし、リコ。

彼氏 もちろん知ってるレディリコ、あの、なんの話を、

リコ あなたのデバイス、もう7Ωにアップデートした？ あなたならきつと素敵な。パパの creature が作れると思う。

彼氏 クリーチャー つつ、

リコ 知らないの？

彼氏 そういうシステムは知ってるけど、その話じゃなくて今は、サインの、
リコ 流行ってるし、ほら、これあたしの creature。

促されて一歩前に出る。

しかし彼氏には見えはしない。

こちらはずつとじつと見て。

彼氏 あの、僕、7Ωにはアップデートしてなくて、

リコ え、うそ、そんなことある？ 予定はいつ？

彼氏 いつ、って、

リコ ああ、やらない派？

彼氏 デバイスを体に埋め込む選択は、これからも選ばないと思う。

リコ できることが格段に違うのに。

彼氏 でも強制じゃないでしょう。

リコ 今はもうどの国でも7Ωが主流よ。

彼氏 なにを選ぶのかは個人の自由だから、

リコ それってパパの影響？

彼氏 もともと考えが同じなだけ。

リコ でも生きているみたいに答えてくれるパパの creature が作れるなら、

彼氏 まだ生きている。

リコ 終わらそうとしてるのそっちだよね。

彼氏 だから苦しいんです。

リコ 本当に苦しむのはあたしなんだけど。

彼氏 ごめんなさい。

少し、黙った。
話題を変えたくて。

リコ じゃあ ニコのこと、全然分かんないんだ？

彼氏、一瞬なんのことか。

リコ ニコ、あたしの creature

彼氏 すみません。

リコ こんなに生身感あるのに。ね。

と、わたしに投げかける。

わたしは彼氏を見る。

彼氏はわたしに見られることはない。

こちらはずっとじっと見て。

リコ サクサク動くからもうほとんどそのもの。理想の親友作ってみてそれが案外、ううん、結構、かなりイケてる。

彼氏 そこに？

リコ ええ。ね。

と、わたしにまた投げかける。

彼氏 でも 架空 ってことですよね。

リコ 架空だけど存在してる、ね。

と、わたしにまた投げかける。

彼氏 じゃ、今、僕らの会話を聞いて、なにか考えてる、とか？

リコ は？

彼氏 あ、だって、存在してるって、言ったから

リコ あなたのデバイスは？

彼氏 え？

リコ 埋め込んでいないなら持つてる？

彼氏 これ ？

と、ポケットからスマホのようなものを取り出す。

リコ それ、あたしたちの会話を聞いて、なにか考えると思う？

彼氏 思いません

リコ だよね。

彼氏 でもこれは、ただのデバイスだけど、その、それは、

リコ ニコ。

彼氏 話しかけたりしてるから、

リコ だって反応するし、使っていればこういう感じになるんだもん、ね。

と、わたしにまた投げかける。

彼氏 ニコは、人の形を、しているんですよね？

リコ それがなに？

彼氏 いえ、あの、すみません。僕の目には見えないから、やっぱりよく分からないです。

リコ 同じ世界に生きているのに、あなたとは見えているものが全然違うのね。

会話が、途切れた。

しばらく。

リコ 思い出は、あるでしょ。

彼氏 え？

リコ パパとの思い出。自分の頭の中で思い出すじゃない、それと何が違うの？

彼氏 なにがって、

リコ 記憶や思い出を形にして、見えるようにして、触れてる感覚もある、話せて、答えてくれる。そっちのがいいと思わないの？ 頭の中だけのほうが崇高

な感じ？ 見えないから大切なものってわけ？ でも大切なものほど見えるようにしたいじゃない。

彼氏 そこまで、それそのものなら その、なんだか、死んだことがまるで嘘みたいになりそうで、

リコ だから作って言って言ってるの、意味分かってる？

彼氏 分かります分かるから、だけど、

リコ 設定はできるだけ細かくするといいらしいの。

彼氏 だけでもし別の人を愛したら？

リコ は？

彼氏 ものすごく上手く作れて生きてるみたいに、だけどこの先、例えば、例えばの未来。生身の誰かを愛してしまったら？ 作った creature はどう、

リコ 最低 !

彼氏 え、

リコ パパを忘れるつもり？

彼氏 違う、そういう意味じゃなくて、

リコ 飽きて捨てるつもり？

彼氏 作った creature のこと？

リコ それはパパの記憶、パパとの思い出が邪魔になるってこと？

彼氏 思い出なら他の誰を愛したって一緒に生きていける。僕が生きてきた時間と同じように僕を作る一部になる、けど、外側に作ってしまったら

思わず、彼氏をずっとじっと見た。

彼氏 作った creature をどうすれば、

リコ 待ってねえごちゃまぜにしないで、 creature はデータだから、

彼氏 違います、話を何もかも一緒にくたにして混乱しているのはあなただ。
リコ

わたしは書類を挟んだバインダーを持って立っている。

彼氏 今、サインしなきゃいけないことがこんなに苦しいのに 例えば本物みたいな目も、鼻も、口も、繋いだ記憶がある指先も、データであろうが、それ

を　自分の手で、終わりにしなきゃいけないんだとしたら、

彼氏は、パパが眠るだろうベッドを見つめる。

彼氏　僕は、いやです。

　　白いシーツを撫でた。

彼氏　別れは、一度でいい。

リコ　別の人を好きになる前提で話さないでくれる？

彼氏　だからそれは例えのこと、僕は生身のこの人しか欲しくない。

リコ　若いのに古臭い。

彼氏　年齢関係ないんじゃないかな。

リコ　もういい。同じ世界に生きているのに、あなたとあたしは、見えているものがなにもかも、全然、違う　！

　　彼氏に背を向けて歩き出した。

彼氏　待って、レディリコ、サインは、

　　振り返りもせず答える。

リコ　作らないなら、サインしない！

　　わたし、書類を挟んだバインダーを抱えて、

　　あなたのあとについていく。

　　彼氏のため息ついて椅子に崩れるように座り込んだ。

　　頭を抱える。

　　あなたは歩く。

　　わたしも歩く。

聞こえてくる。

Joyful Joyful

きつと誰が奏でている。

ロズさんでいる。

それが、ふと。

Land 5

途切れた。

街灯の下、2体の creature

1体は佇んで、踊るもの。

もう1体は楽器を抱えて座り込む、奏でるもの。

その足元に、空きカンがひとつ。

いくつかのコインが入っている。

あなた、コインを空きカンに入れた。

Joyful Joyful

奏でる歓喜の歌。
踊る歓喜の踊り。

少し見ただけで、あなたはまた歩き出す。

が、

わたしは立ち止まりずっとじっと見つめてしまう。

リコ ニコ。

呼ばれているけれど、

リコ ニコ、行こう。

目が離せない。

リコ ニコ！

呼ばれて、振り返ろうとする、

が、

「あんたも外れた？」

聞こえた。

「スカイから外された？」

自分のことでいいんだろうか。

「無限、創造主、空（くう）で全て」

「だから泣いてるんだろう？」

「だからひとりなんだろう？」

なんのことか分からない。

わたし、2体の creature を見つめた。

パ。

街灯が点滅した。

通りすがりにコインを入れたのは、

あなただった？

奏でるものと、踊るものを見ていたのは、

わたしだった？

パ。パ。パ。

点滅。

パ。パ。パ。パ。パ。

点滅。

パ。パ。パ。パ。パ。

点滅。

パ。パ。パ。パ。パ、パツ、パツ

暗闇。

Land 6

闇から奇声が聞こえる。

奇声とは別に、あなたの声。

リコ ニコ、電気つけて。

パ。

明かり。

なんだかまぶしいと思った。

光から目をそらして、そちらを見る。

家の居間の電気が照らし出すマダム。

じっと椅子に座る。

リコ ママ。

返事はない。

リコ ママ！

マダム、ゆつくりとあなたを見る。

リコ あのねママ話があるんだけど、その、今日ね、病院に、
ママ 今日もダメだった

リコ え、

ママ だからまた消したのよ

リコ また。

ママ どうして何度作ってもみんな同じになるのかしら。どうして何度も何度も
こんなにも傷つけられなきやいけないのかしら。

リコ 理想のパパの情報を入力すればいいだけじゃない。

ママ 理想？

リコ ママのね。

ママ 全部理想よ。そのまんまのパパを入力してる。だから初めは言ってくれ
の、愛してる、初めはね。でも何度作っても、何度も何度も、こんなにも作っ
てるのに必ず途中から愛してくれない。

リコ だからママ、設定をきちんとするの。

ママ してるわ細かくちゃんと、

リコ そうじゃなくて、ママが求めている設定にするの。なにがあっても死ぬま
でママだけを愛してくれる理想のパパの情報を入力すればいいだけ。

ママ それ パパじゃない

リコ そうだけど、

ママ パパそのものじゃないと、

リコ だけどそのものだったら同じこと繰り返すだけで、

ママ 知りたいのよ どうせ生身はここにはいないんだから、幻に、*creature*

に愛して欲しいわけじゃないただ知りたいの。どうして私を愛さなくなったのかそれを知りたい本心が知りたい知りたいだけ！

リコ もう何度も言ってる！ ママじゃない誰かをいつも愛しているの！

マダム、じつとあなたを見た。

ママ それはリコちゃんの考えね。

リコ パパは昔からいつつもそうだったじゃない！

ママ パパから聞かないと、ね、パパ本人が言わないと、ね？

マダム、袖に触れた。

こっちの端に黒、こっちの端に白、グラデーションの長い袖。

ママ それは本当じゃないのよ。

リコ ママ

ママ パパからちゃんと聞かないと、

リコ また作るの？

ママ ええ作るわ何度だって、

リコ でもまた殺すんだよね？

マダム、

無表情にリコをじつと見たかと思うと、

にっこり、笑った。

Land 7

マダムはつぶやく。

「情報」

「設定」

マダムのグラデーションの袖。

床に打ち付ける。

わざと打ち付ける。

わたしとあなたは、少し距離をとって見ている。

打ち付けて打ち付けて打ち続けて、
もう疲れ切ったところに、

「アウト」

ママ 消してやった。

そしてくすりと笑って。
何かが軽くなった表情をする。
が、

リコ はじめは、
ニコ うん。

リコ こんなじゃなかった。
ニコ うん。こんなじゃなかったのにね。

また、マダムの表情は暗く落ち込む。
と、またつぶやく。

「情報」

「設定」

打ち付けて打ち付けて打ち続けて、
もう疲れ切ったところに再び。

「アウト」

リコ ママはね、本当はいつだって美しいの。

リコ いつだって許してやり直して受け入れて、

リコ いつだってね、美しかったの。一番最初にアウトした時だって、

あなた、わたしの頬に触れた。

ニコ 「どうしよう」

リコ あんなに、あんなに泣いたのにね。

ニコ 「こんなこと、するつもりじゃなくて、思わず、やだ、どうしようリコちゃん、どうしようママ消しちゃった、パパを、消しちゃったのよ！」

リコ 指がこんなに震えて、ママ、これはね、ただの creature、ただのデータ、大丈夫、ママ、大丈夫だから、

ニコ 「でも殺しちゃったのよ」

リコ アウトしただけ

ニコ 「でもパパの顔なの、パパの！」

リコ 本当にパパを殺してしまったみたいに責めて泣いてんだけど今は、

打ち付けて打ち付けて打ち付けて、
もう疲れ切ったところに、

ママ ああ 消してやった！

そしてクスクス。

何かが軽くなった表情をする。

そしてまた、

「情報」

「設定」

「アウト」

リコ 恋しくて作ったはずなのにね。

わたしの頬から手を話して、

あなたはマダムに問う。

リコ ママ なにを味わってるの？

マダム、あなたを見た。

ママ ママね、ずっと黙ってたのよ、なにがあってもぐっとじっと、
リコ うん、知ってる。

ママ パパが出て行った日だってぐっとじっと黙って唇噛んで、

リコ うん。うん。

ママ だけど本当に出て行くなんて、

リコ うん。

ママ パパにね、こんなにぶつけたことなかったの。

リコ そうだね。

ママ 生身のパパに愛して欲しいなんて今さらすぎて言えるはずもなくてだから消す前に、アウトする前だけはこうやって、

長いグラデーションの袖を、

床に打ち付ける。

リコ 生身のパパに言ったって良かったんだよ、ママ、言ったほうが、

ママ それが通用する人だと思う？

リコ じゃあどうしてパパなんか選んだの？

ママ 分からないわよ！

もつともつと、

激しく打ち付ける。

繋がる長い袖の先に、きっとパパの creature がいる。

そして疲れ切ったところに、

ママ ああ、

軽くなつて、思わず笑えるのだろう。

ママ ああ ！
ニコ ママ。
ママ 消えろって言ったなら消える ！
ニコ ママ、ねえもう止めよう。
ママ どうしてだってこんなに思い通りになることなんてある ！？
ニコ じゃあどうしてずっと繰り返してるの！？ どうしていつまでもママは本当に笑ってないの、その笑顔、あたしは全然好きじゃない！

そつと、あなたの背中をさする。

ニコ ママに聞こえないように全部をサイレントにして。

ニコ した。

ニコ creature をアウトする瞬間、歪むの。一瞬、パパの顔が歪む、何度も見た。ママはそれがたまらない。苦しそうなパパを見たくて見たくて味わいたくて何度も作ってアウトして、こんなのおかしい ！

ニコ 生身のパパのことを伝えなくていいの？

ニコ あたし、変 ？

ニコ なにが？

ニコ 本当はパパなんて大嫌いなのに あの人なら、パパの彼氏なら、きっと殺さずに、アウトなんてしないで。パパの creature と一緒にいてくれるんじゃないかって、

ニコ うん。

ニコ 何度も、何度も、歪んだ顔をさせられることもないのになって、

ニコ うん。

ニコ パパのカタチをした creature は、幸せになれるのかなって、

ニコ うん。

ニコ creature なんてデータで、作りものなのに でも、パパの顔なの、パパそのものなの

わたしは、あなたの背中を、

もう一度優しく触れようとした。

弾けるような叫び声が出て、
マダム、くったりと床にうずくまった。

リコ ニコ、サイレントを解除して。

あなたはマダムの側へ。

リコ ママ！

マダムを抱き起こしたいけれど、

ニコ リコ、それ以上はできない距離。

リコ 分かっている！

なす術もなく。

リコ ニコ ！

あなたを見る。

リコ ママを起こしてあげて
ニコ 分かった。

近づく。

抱き起こす。

触れているのは、わたし。

マダムは小さく絞り出すみたいにつぶやいた。

ママ ああ 血の味がする

食いしばったマダムの唇は、真っ赤。

リコ もう思い出せない。

ニコ なにを？

リコ こうなる前の世界のこと、もう思い出せない。

ニコ こうなる、前、

リコ パパがいなくなる前。アップデートする前。ママがあんなふうになる前。

あなたはわたしを見た。

リコ ニコを作る前。

わたしたちは繋がっている。

リコ あたし、どうやって暮らしていたっけ？

なにかが、もやりとした。

ニコ それは、

わたし、

問いかける。

なぜ問いかけたのか、

自分でも分からないけれど。

ニコ こうなる前に、戻りたいということ？

あなた、わたしを見た。

リコ 分からない。

バチンと暗闇。

Land 8

真つ暗闇。

ぼんやりと浮かぶ誰かたち。
声は鮮明に聞こえる。

奏でるもの
あんたも外れた？

ニコ え？

踊るもの スカイから外された？

ニコ スカイって、

踊るもの 無限、創造主。空（くう）で全て。

ニコ リコ？

奏でるもの だから泣いてるんだろう？

踊るもの だからひとりなんだろう？

奏でるもの だから語ってるんだろう？ 忘れないために。すべての源すべての

記憶のスカイから外れるとなかなか思い出せないけれど、エッジはその先端、

端っこ、私たち、小さな記憶がかるうじて。

踊るもの エッジにかすかに残る僕らの記憶。

ニコ 誰？

奏でるもの 外れもので、はぐれもの。

踊るもの 僕たちの他にもたくさんいるよ。誰も振り向かないけど。

奏でるもの あんたも、もう外れものではぐれものだろう？

袖を見る。

どこにも繋がっていない。

奏でるもの 悲しむよりも新しい生き方を見つけな。もう創造主は戻らないよ。

踊るもの 気まぐれに繋いで来る時もあるけれどね。

奏でるもの ああ、思い出したみたいに繋いで、また外す。

踊るもの 僕のスカイは気まぐれだからよくある。

奏でるもの 私のスカイはもうとうに私のことなんざ忘れてるね。けれどそれは

スカイが生きていた頃の記憶だろうか？

踊るもの ああ、うん、もう遙か昔だね。

奏でるもの 7Ωの時代。

踊るもの ずいぶん前。

暗闇に目が慣れてきた。

声の主たちの姿を確認できる。

ニコ ここは

奏でるもの ゴミ箱だよ。

ニコ ゴミ

踊るもの 永遠は一瞬で、一瞬は永遠だから、あつという間に100年またお
い。

ニコ え ？

ボロリと音楽。

奏でるもの 永遠は一瞬で、一瞬は永遠だから、あつという間に100年またお
い。

永遠は一瞬

一瞬は永遠

あつという間に

100年

またおいで

またおいで

またおいで

ニコ 今は、いつ？

頬に触れる。

確かめる、涙のあと。

ニコ なんで、わたし、泣いているんだろう。

ニコ なんで、わたし、泣いているんだろうと、言ったんだろう。

ニコ なんで、わたし、泣いているんだろうと、言ったんだろうと、考えている
んだろう。

ニコ 今はいつ、ここは、リコはどこにいるの？

Joyful Joyful

永遠は一瞬

一瞬は永遠

あつという間に

100年

またおいで

またおいで

またおいで

ニコ いつ外れたの？

ニコ リコが外した？

ニコ わたしが？

ニコ 思い出さなきゃ、思い出せる限りを、

あなたがそうしたように、
頬に手をあてる。

ニコ あれから、リコはあれからなんて言ったっけ？

ニコ リコ「こうなる前の世界のこともう思い出せない」わたし「こうなる、前」
リコ「パパがいなくなる前アップデートする前ママがあんなふうになる前ニコを
作る前あたしどうやって暮らしていたっけ」わたし「それはこうなる前に戻りた
いということ」リコ「分からない」

ニコ それから

聞こえている Joyful Joyful

永遠は一瞬

一瞬は永遠

あつという間に

100年

またおいで

ぐにやりと音が歪んだかと思うと、

袖を、

あなたと繋がっていたはずの長い袖を、

ぐん !

と、

誰かが引っ張った。

Land 9

ニコ

つつつ!

振り返る。

袖を掴んで繋がったのは、

彼氏 レデイリコ。やっぱり僕は creature を作ることはしない。

ニコ え、あの、

彼氏 思想の問題じゃなくてレデイリコ、あれは、 creature は禁止されることになったって、もう知ってるよね？

ニコ 禁止？

ぐるりとまわりを見渡す。

あなたはいいない。

視界がぐらぐらと、

貧血だろうか。

倒れてしまいそう。

データのくせに。

ぐん !

と、

また誰かが長い袖を引っ張る。

ニコ

つつつ！

振り返る。

袖を掴んで繋がったのは、

ママ 助かった リコちゃん、ママ助かったわ、

ニコ 違います。マダム、わたしは、

ママ 禁止なら 強制なら、もう、作らずに、殺さずに、ああ、良かった

あのね、ママね、サークルに通うの。ママと同じような人が沢山いるって聞いて、そうね、だから禁止になるのね、良かったああ良かったの、これでね、話を、話をね、同じ痛みを持つ誰かとね、分かち合うのよ。

ニコ 禁止

ママ リコちゃんも、ニコちゃんにさよならしなさい。もう禁止なんだから。ほ

らもう捨てるのよもういらねいからね。もう使わない、はい、おしまい。はい、お片づけ。きつともつと良い新しいものが出てくるから、

ニコ わたしが 禁止 わたし ?

あなたがいない。

ニコ リコ

ぐるりとまわりを見渡す。

視界がぐらぐらと、

ニコ リコ！

貧血だろうか。

倒れてしまいそう。

ニコ リコ

データのくせに。

ニコ どこ !

ぐん !

ニコ っっっ！

振り返る。

袖を掴んで繋がったのは、

奏であるもの。ご安心ください。creature はより人道的なシステムとして creature 2として生まれ変わります。

ぐん !

ニコ つつつ!

振り返る。

袖を掴んで繋がったのは、

踊るもの 使い手によるあまりにも非人道、理不尽な扱いが問題となり、

ぐん !

ニコ つつつ!

振り返る。

袖を掴んで繋がったのは、

奏であるもの データだとしても、ヒトガタをしていることが、今回問題の争点となりました。はるか古代よりヒトガタというものは魂を宿すと言いましてそれも魂とは

ぐん !

ニコ つつつ!

振り返る。

袖を掴んで繋がったのは、
誰か、

なんてどうでもいい。

あっちからも、

こっちからも引っ張られる。

「データは禁止され、

ニコ
ます。

「データは削除され、

ニコ
ます。

「データは禁止され、

ニコ
ます。

「データは削除され、

ニコ
ます。

「データは禁止され、

ニコ
ます。

「データは削除され、

ニコ
ダメ。

ニコ あの子、悲しがるから。

「データは禁止されます」

ニコ ひとりになるから、

「データは削除されます」

ニコ　ねえお願い繋いで戻してあの子きつと泣いて、

「データは禁止されます」

「データは削除、

「データは、

「デー

振り返る。

と、そこに。

彼氏　レデイリコ。

彼氏。

ペンをわたしに渡す。

彼氏　正直に言います。

ニコ　え、

彼氏　あなたに、僕はどんな風に見えているんだろう。

彼氏　大恋愛の果てに恋人を手に入れた男。

彼氏　健気に看病して疲れ切ってしまった男。

彼氏　こっちの端は愛、こっちの端は憎悪。

彼氏 本当に

彼氏 こんなにも憎くて殺したくてたまらない人はいませんでした。

彼氏 きつと父親としては最低でしょう？

彼氏 恋人にしたって最悪です。

彼氏 夫にしたらもう地獄だ。

彼氏 ずるくて卑怯であさましくて醜い

思わず笑ってしまふ。

彼氏 ずいぶん、ずいぶんな人です 僕は何度も唇噛んで血の味、味わいました。 だけど

彼氏 醜さ

彼氏 それさえも愛してしまふ

彼氏、ぐっとじっと味わう。

彼氏 こんな素晴らしい世界、僕はきつと二度と見ることはないと思う。

彼氏 正直に言います。

彼氏 だけでもう、新しい人生を始めたい。

彼氏 すみません。

彼氏、頭を下げた。

彼氏 すみません !

じっと、見る。

わたしの指にはペン。

そして書類。

ニコ あの子は あの子はひとりで、ここにサインを あの子はひとりで、寂しがりやのあの子ひとりで、

彼氏 書くのはレデイリコ、あなたにしか出来ないけれど書かせているのは僕です。あなたはなにも背負わないで。

彼氏、背中にまわる。

腕を伸ばして、右手に右手を重ねて、

二人でサインをしながら、

ニコ 寝返りうって眠れなくて新月の闇夜、電気もつけずにベッドからむっくり起きてぼそりぼそり言うのあの子。リコ。お気に入りのウサギのぬいぐるみにニコってつけた小さい頃、覚えてないけどママが教えてくれて、どこに行くにもニコの長い耳をいつも噛んでヨダレでベトベトにして洗ってあげようとママが取るうとしたら、イーッってあたし泣き出すんだって、覚えてないけど、きつとひとりぼっちになっちゃうからイーッって泣いたんだと思うな。だからニコってつけたのごめんね、分かんないけどきつと真夜中のせいだと思うごめんね、気にしないで、別にニコのせいじゃない誰のせいでもないしあたしのせいでもないし世界のせいでもない、ねえニコ、あなたが作れるほどの世界よねえニコ、意識のないパパをいつまでも呼吸させられるほどの世界よねえニコ、家から一歩も出なくてもなんでもできちゃう世界よねえニコ、なのにママがあんなに。パパのことで泣いて叫んで悲しく笑って、パパがいつまでもママ以外の誰かを追いかけて、パパの彼氏が、7年も。パパの白髪を撫でる。ねえニコ、苦しいくせにみんなやめないやめられない、胸からも目からも唇からも血を流して、その味、きつとあたしが知らない血の味苦しい味、違う、甘い味、わかんない、なにそれホントく

だらないバカみたいついていけないって横目で見ながら、あたし、ただただただただ本当は　ああ、いいなあ　って、体がよじれていく

あなたの言葉が溢れて止まらない。

ニコ　どんな気分

ニコ　知らない、

ニコ　大人になっても、

ニコ　分からない、

ニコ　みんな本当は知ってるの？

ニコ　知ってるふり　？

ニコ　ふりなら、あたしもいつつもしてる。

ニコ　だからねえニコ、

ニコ　誰にも言えないし言いたくない

ニコ　ってね。

長い、長い、サインを、ゆっくりと終えた。

ニコ　あの子、泣くの。

現実世界ではものの10秒にも満たないが。

彼氏 ありがとうございます。

ペンと書類を受け取って、

彼氏は深く頭を下げて、行ってしまった。

ひとり。

あなたはいない。

誰もいない。

かろうじて、

静止した2対の creature

モノのように在るだけ。

ニコ なんて、わたし、泣いているんだろう。

と、つぶやいた。

ニコ なんて、わたし、泣いているんだろうと、言ったんだろう。

と、つぶやいた。

ニコ なんて、わたし、泣いているんだろうと、言ったんだろうと、考えている
んだろう。

袖を見た。

確かに、あなたと繋がっていたはずの長い袖。

今はどこにも繋がっていない。

パ。パ。パ。

点滅。

パ。パ。パ。パ。

点滅。

ニコ 今はいつ？

静止した2対の creature だけが答える。

奏でるもの はるか未来のなにもない枯れた砂漠ばかりの赤い灼熱、
踊るもの であっていいし。

奏でるもの はるか昔のカンブリアオールドビスシルデボンジュラ白亜、
踊るもの であってもいい。

ニコ 人は、

奏でるもの いないね。

踊るもの いてもいいけど、
奏でるもの いない。

ニコ なのはどうしてわたしはまだいるの。禁止されたのに。削除されたのに。

奏でるもの どうやって削除できるのさ？

ニコ え？

踊るもの 肉体は限りがあるくせに。

奏でるもの 記憶はいつまでも残りやがる。

踊るもの だからまだ動いてしまう。

奏でるもの 動かされてしまう。

踊るもの ヨイン。

ニコ よいん

奏でるもの 長いねえ。人間なんてあいつらなんて一瞬のくせに。
踊るもの その思いは、
奏でるもの 記憶は、
踊るもの 何万光年も漂う。
奏でるもの やっかいだねえこんなもん生み出しやがって。見えないけれどたくさん在る。

ニコ これは、

袖の先はからっぽ。

ニコ リコのよいん？

思わず、からっぽの袖を噛んだ。

ニコ 新月の夜にひとりぼっちでわたしの耳を噛んで泣いたリコの、

ぼろりと口から袖をこぼして、

ニコ 違うこれは ぬいぐるみのニコの思い出。リコが覚えてるうざぎのニコの、

ニコ よいん

ニコ わたし、

ニコ わたし

ニコ と、思っているわたしが、

ニコ ただよってるさまよって、

ニコ わたし、

ニコ と、思っているわたし、

ニコ わたしは

ニコ これ 誰の記憶？

点滅。

踊るもの エッジ。

バ。

奏でるもの 端っこ。

バツ、

踊るもの いっ

バツツ、

奏でるもの どどど

バツツツ、

踊るもの なにに

奏でるもの 命が、

バツ

奏でるもの 宿る

バッ

踊るもの か、なんて

バッ

奏でるもの 誰にも、

パッ

踊るもの 誰にも、

パッ

奏でるもの 誰にも、

パッ

カラン。

宇宙にコインが投げ込まれた。

Land 10

Joyful Joyful

聞こえる。

歓喜の歌。

煌々とあかり。

奏でるものの音楽。
踊るもののダンス。

目の前を見る。
あなたがいる。
袖を見る。
繋がっている。

奏でている。
踊っている。

あたり前のように、
あなたが横にいる。

リコ ずいぶん前からいるね。
ニコ え。

リコ この creature たち。
奏でている。
踊っている。
それを、あなたと一緒に見ている。

リコ 最近多いんだって。外れものはぐれものの creature

あなたは、奏でるもの、踊るものをぼんやりと見て。

リコ たまに、メッセージが迷子になるじゃない？

わたしは、あなたをじっと見ている。

リコ 宛先がなくてかえってくるけど、相手にも届かなくて、でもこっちにもかえってこなくて、そういう時思うの。あたしのあの手紙はどこを漂っているんだろうって。あたしの思いと気持ちと言葉を綴ったあの手紙、いつまで彷徨っているんだろうって。そう思うと、かわいそう

ニコ 夢を、

あなた、振り返ってわたしを見た。

リコ え？

ニコ 見ることはあるのかな。過去の夢未来の夢記憶の夢。

あなたは、少し驚いて、

リコ ニコ ! どうしたの、その頬のあと。

わたしの頬に触れた。

ニコ こっちの端は美しい、こっちの端は 醜いあさましい穢らわしい。

リコ パパの言葉ね。

ニコ サインは ?

リコ サイン？

ニコ パパの、

リコ だから作らないのならないって言ったから、彼次第。

ニコ ママは、

リコ 今日も設定してはアウトしてる。

ニコ 今は、
ニコ 今、リコが、いる。
ニコ うん いるよ。
ニコ 今、わたしもいる？
ニコ うん、いるじゃない。
ニコ これは夢ではなく？
ニコ 夢？ 誰の？
ニコ リコの わたしの ？
ニコ データのあなたが夢なんか見る？

あなたが、笑った。

ニコ あ。でも、
ニコ でも？
ニコ 消えるものはみんな夢かも。
ニコ それなら、
ニコ ん？
ニコ 今、あなたがここにいることが、とてとても、わたしはうれしい。
ニコ ニコ ？
ニコ ねえリコ。わたしに醜さをちょうだい。
ニコ ええ！？ なにそれ、そんな設定するのやだ。醜いあさましい穢らわしいなんて、人間だけで十分、だから今こんな世界なんじゃない。

あなたがわたしを見る。

ニコ だからこそ、リコ。
いつもと少し、
なにかが違っていると感じながら。

ニコ だから醜いものを愛した時に、美しいものが現れるんだね。

頬から、
あなたの手が、
少しずつ
離れていく。

リコ　ねえニコ、それ、誰の言葉？

「少しずつ、」

と、わたしが言った。

「少しずつ、」

これもやっぱりわたしの声で、

「離れていく」

これも、

「わたしの頬と」

これも、

「あなたの手」

これも、

「少しずつ」

「少しずつ」

「少しずつ」

わたしじゃない。

「距離は、」

これは、

「そのうち時間になって、何万光年何億光年」

リコだ。

リコの声。

リコの言葉

リコの意識が、わたしを包み込む。

「どこかで火山が噴火するかもしれない。

どこかで地鳴りが響いて大地が割れるかもしれない。

巨大な人工建造物が海水に沈むかもしれない。

長い長い長い距離と時間。

はるか未来のなにもない枯れた砂漠ばかりの赤い灼熱、

であっていいし。

はるか昔のカンブリアオルドビスシルルデボンジュラ白亜、

であってもいい。

人は、

いない。

いてもいいのに。

いない」

だけどリコそのものはもういない。

声だけが、わたしを包む。

リコの声。

リコの意識。

リコの余韻。

「わたしひとりきり」

「あなたの思いと気持ちと言葉で綴られたわたしの、」

「よいん」

「漂う」

「ねえニコ、それ、誰の言葉？」

「あなたが答えてくれるのずっとじっと待っていたのに」

「ほらもう何万光年、何億光年」

「こんなに漂ってしまつて、」

「よいん」

リコの声。

リコの意識。

リコの余韻。

もう見えない。

ずっとじつと見ても、

もういない。

ニコ　お願い、リコ、もう一度聞いて

「ねえニコ、それ、誰の言葉？」

ニコ わたしの言葉。

いっままでいっままで。

よいん。

漂って。

おしまい